

小豆 しみず有機施用試験 作況結果

圃場場所 北農研 芽室研究拠点

区画 5m×6m×18区

畝間:株間 66cm-18cm 2粒播き

品種 きたろまん

試験区分 対照区 BBS 662 70kg/10a × 9区 3反復

試験区 BBS 662 70kg/10a + しみず有機 60kg/10a × 3区

BBS 662 70kg/10a + しみず有機 120kg/10a × 3区

BBS 662 70kg/10a + しみず有機 180kg/10a × 3区

播種日 R1年5/27

防除 R1年8/9 カスケード乳剤 4000倍、8/19スミチオン乳剤 1000倍

収穫 R1年 10/7 各区20株を刈取り・脱穀

調査 十勝農業改良普及センター 十勝西部支所 ・ JA 経営指導課

1区あたり4列目中央部の平均的な生育の5株を計測

【作況結果】

5株/区×3区平均

(cm・莢数/m²)

	対照区	60kg区	対照区	120kg区	対照区	180kg区
7月18日						
茎長	5.2	5.5	5.3	5.5	5.4	5.8
葉数	3.2	3.1	3.2	3.5	3.3	3.3
莢数	0	0	0	0	0	0
8月26日						
茎長	45.6	45.6	48.1	44.3	46.5	47.9
葉数	11.3	11.5	11.0	10.5	11.1	10.6
莢数	184	190	246	273	302	376
9月13日						
茎長	52.0	50.2	51.5	52.2	50.1	52.0
葉数	10.3	10.5	10.3	10.6	10.1	10.6
莢数	442	407	397	401	374	393
10月7日						
100粒重(g)	15.5	15.5	16.0	15.9	16.2	16.6
反収(kg/10a)	313	308	324	312	338	355

【結果・考察】

- ・ 本試験の対照区と試験区の比較においては、しみず有機の施用の有無、施用量に係らず、茎長、葉数、莢数に大きな差異や傾向は認められない。
- ・ しみず有機を施用した区において、対照区と比較して登熟が遅れる傾向は認められない。
- ・ 180kg区においては、100粒重、反収共に増加する傾向にあった。

【今後の予定】

- ・ 収穫物の小豆の成分解析
- ・ 栽培期間中の土壌微生物群の解析
- ・ 堆肥を連用することによる効果(次年度は同一圃場で馬鈴薯を作付予定)

写真添付

2019.9.13 左:对照区 右:60kg試験区



左:对照区 右:120kg試験区



左:对照区 右:180kg試験区



2019.10.07

对照区



60kg試験区



对照区



120kg試験区



对照区



180kg試験区

